

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称		福津市地域交通体系協議会
開催日時		令和8年7月22日（水）10時30分～12時00分
開催場所		福津市図書館 2階 研修室1
委員名		・出席委員 永松靖二（代理：野中綾介）、池田舞、吉住信哉（代理：田主学）、塩川浩一、保井享（代理：若松宏史）、中川久美、小川英和、岡田和憲、蒲生守、山口尚志、岸川雄次、矢加部忍、鈴木裕介、中村一枝、小島恵、水上雅史、大庭武志
所管課職員職氏名		（都市整備部都市計画課） 都市計画課長：安永紳一郎 都市政策係長：前田樹 都市政策係：三船浩史
会 議	議 題 （内 容）	会長あいさつ 報告事項 ・福津市地域公共交通計画における評価指標・目標値及び実績について ・公共交通関係各種事業等の実績報告について ・西鉄バス津屋崎・福間線（1-2 系統）の便あたり運行実績について その他
	公開・非公開 の別	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開
	非公開の理由	
	傍聴者の数	1 名
	資料の名称	・令和8年度第1回福津市地域交通体系協議会 次第 ・資料1 福津市地域公共交通計画における評価指標・目標値及び実績について ・資料2 公共交通関係各種事業等の実績報告について ・資料3 西鉄バス津屋崎・福間線（1-2 系統）の便あたり運行実績について
会議録の作成方針		☐ 録音テープを使用した全文記録
		☒ 録音テープを使用した要点記録
		☐ 要点記録
		記録内容の確認方法 ・矢加部忍委員と水上雅史委員による確認
その他の必要事項		

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）	
○委員の紹介	
○会長あいさつ	
○審議会成立宣言	
・委員 17 名中 17 名の出席により成立。	
○会議録確認委員の指名	
・会議録を確認し署名を行う委員について、 会長の指名により矢加部委員と水上委員に決定。	
○傍聴者の確認	
・傍聴希望者 1 名。	
○報告事項	
・福津市地域公共交通計画における評価指標・目標値及び実績について 事務局より資料のとおり説明。	
<質疑>	
蒲生委員	目標Ⅱのバス待ち改善箇所数について R7 実績が 0 箇所の理由は。また 今後の方針を教えてください。
事務局	年度途中の計画であったため、R7 は間に合わなかった。R8 は 2 箇所行 う予定にしている。
岡田委員	どうして R7 年度の実績に対して R12 年度の目標を定めているのか。単 年での目標設定はできないのか。
事務局	地域公共交通計画自体が 5 年毎の策定となるため、このような目標の定 め方をしている。
中川委員	鉄道の駅別年間利用者数について、利用人員と乗車人員は異なる。こ の資料は乗車人員であると思われる。乗車人員は乗車した者のみの数 値であり、利用人員は降車した者の数値も含まれるため、ここは区別 してほしい。
会長	次回からは注釈を入れる等、工夫が欲しい。
野中代理	市民アンケートにおける公共交通の利用率について、この目標値はど のような計算から算出されたものなのか。
事務局	R5 年度の市民意識調査における各種公共交通の利用状況から算出して いる。意識調査の方法が変わり、複数選択の合計で算出されるよう になり、事務局としてもこの数値に疑問は感じている。 (※一部説明に誤りあり。設問は「日常的な買い物や通院等の移動手段」 から「日常的な移動手段」に変更しており、単一的な目的でないもの としたために大幅増となったものである)
○報告事項	
・公共交通関係各種事業等の実績報告について 事務局より資料のとおり説明	
<質疑>	

会長	まずは主軸となる公共交通の人の流れを見た上でコミュニティバスの質疑を行ったほうが良いと思われる。JR、西鉄バス、JR バスの実績を教えてもらいたい。
中川委員	R6 年度の JR の乗車人員は福岡駅 9,058 人/日、東福岡駅 2,509 人/日となっており、前年に比べてそれぞれ 500 人、200 人ずつ増加している。特に海外の観光客が多く、宮地嶽神社への案内が多い。
池田委員	R7 年度実績の 3,679 千人は 3 路線の合計である。前年より年間で 10 万人程度増えているが、増加している路線と減少している路線があり、全路線増加傾向にあるわけではない。
田主代理	平日は 700 人/日、休日は 1,000 人/日程度の利用がある。市外の利用者が多く、JR を利用し、バスに乗り継ぎイオンに通勤、買い物に行く方が多い。特にイオンでのイベント開催時、天候（酷暑、酷寒、降雨）によって利用者が増加する傾向にある。
会長	それではミニバスの利用について質問はあるか。
山口委員	R3,4 年度はコロナ渦中であつたと記憶しているが、利用者数が増加している理由を教えてもらいたい。
事務局	R3 年度に路線変更と料金改定を行った。コロナも若干落ち着き始めたことに伴い、それが増加理由と考えている。
岡田委員	ミニバスは高齢者の利用が多いと認識しているが、免許返納者数の増加と利用者数の増加に因果関係はあるか。
事務局	免許返納者には 1 年間のミニバス無料乗車券を交付している。 <u>毎年 100 名前後に交付しており¹</u> 、その分利用者数も増えている印象である。交付時にもミニバスの乗り方や路線の種類、バス停等の案内を行っている。
蒲生委員	ミニバスの収支率の目標が 20%となっているが、目標を達成すれば市として潤沢な運行と言えるのか。昨今は人件費も燃料代も高騰しているため、今後経費が上昇するのではと懸念している。
事務局	福岡県の補助金を活用するには収支率 25%以上という基準が設けられており、それを参考に目標設定している。運行経費については今後増加することは予測している。ミニバスの経費としては、契約によって定められた運行経費から運賃収入を差し引いた額を委託料として運行事業者に支払いを行っている。運賃収入の増減によって、運行事業者に入ってくる金額が変わるということはない。
岡田委員	ミニバスは現在黒字なのか。
事務局	運行事業者に支払っている委託料としては年間 50,000 千円程度である。その額が黒字赤字で言うところの赤字の部分である。
会長	目標値を超えたからいいというわけではなく、全路線で県の補助金を活用できれば、市民の負担軽減に繋がり、そのためにはどう需要を増やしていくか分析していく必要がある。時期によってミニバスの利用者の増減が見られるが、その理由を分析するのがよいのではないか。
岸川委員	このアンケートではミニバスの利用目的がわからないので工夫したほうがよい。

¹（正しくは R5：109 名、R6：175 名、R7：172 名の交付）

○報告事項

・西鉄バス津屋崎・福岡線（1-2 系統）の便あたり運行実績について事務局より資料のとおり説明

また、1-2 系統について西鉄より近日中での廃線の申し出があったことを事務局より説明。

＜廃線について西鉄より説明＞

池田委員 以前より津屋崎鐘崎線として運行していたが、運転手不足が理由で令和 6 年 3 月末に 1 年後の全線廃線の申し出を行っていた。しかし、各市との協議に伴い、廃止区間や廃止時期の調整を行い、令和 7 年 10 月に一部区間である鐘崎津屋崎間（勝浦系統）を廃止とした。1-2 系統について利用状況は少なかったが、特に 1-2 系統しか走行しない区間（東町～南町）については便あたり 5.49 人と著しく少ない状態である。廃止の最大の理由は運転手不足であり、これ以上 1-2 系統の運航継続は厳しく、改めて廃止に向けた協議を進めている。

事務局 代替交通については案を策定している段階である。ただ、日曜祝日、早朝、夜間での運行は難しい部分がある。

＜質疑＞

岸川委員 福岡海岸から宮地浜間が夏場は非常に混雑する。その間の臨時バス等の運行はできないか。

池田委員 時期によって需要が異なるのは理解している。マイカーによる渋滞解消には、路線バスに限らず貸切バスという形も考えられる。イベント臨時バス等は運行しているが、決まった期間、特定のエリアでの運行というものは行っていない。

蒲生委員 前回の協議会でも話したが、1-2 系統は残してほしい。1-1 系統の運行を 1-2 系統に一部置き換えれば運転手不足は解消されるのではないか。

池田委員 運転手不足を解消するには、全体的な便数を減らさなければならない。利用者の少ない便から廃止にすることとなり、今回は 1-2 系統を廃止するという方針になった。

蒲生委員 運転手不足ということであれば、収支は下がるかもしれないが 1-1 系統の運行を 1-2 系統に置き換えれば運転手不足は解消されるのではないか。この道路は生活路線でもあり、観光路線でもある。西福岡 5 丁目は今後福岡駅までの利用者也増えていくのではないか。

池田委員 便あたり 10 人を超えているかを、全社的に路線バスで維持するかの目安としている。

蒲生委員 実際 1-2 系統全体で言えば便あたり 9.66 人であり、イベント時には増える認識である。市民目線としては残しておいて欲しい。

池田委員 東町から南町を見るとやはり利用者数は少なく、5.49 人であると存続は厳しい。

田主代理 夏場に海岸へ行く利用者は多いのか。ミニバスは日曜祝日も運行すればいいのでは。

事務局 夏場の臨時便については以前運行したが、自家用車利用が圧倒的に多く、バスがなかなか時間通りに来ないという事案が多発した。ミニバスについては、車両点検や運転手が十分に確保できないという点から運休日として日曜祝日を設定している。運行事業者に過度な負担がかからないようにしている。

塩川委員	ミニバスについて、単に利用者、運行収入を増やせばいいという目線だけではなく、全体のバランスを見てほしい。福津市は JR、西鉄バス、JR バスが運行しているのに加え、タクシー事業者が2社と非常に恵まれている。特定の交通に偏るとほかの交通が維持できなくなり、民間事業者が運行できなければ全て市が行わなければならない。ミニバスはあくまでも交通空白を解消するためのものであり、補完的な手段である。メインは民間の公共交通の利用をお願いしたい。
小島委員	観光協会では、海に行く手段としてはバス、お急ぎの方にはタクシー、場合によってはレンタサイクルを案内している。バスがあるが一番いいが他にも手段があるので知ってもらいたい。
○その他	
田主代理	JR やバス、タクシーの運転手や整備士が不足しており、常時募集している。公共交通維持のために周知をしてもらいたい。
岡田委員	公共交通利用者が増加すれば市が掲げている『稼げるまちづくり』にも繋がるのではないかと考えている。福津市は観光客は多いが、そのほぼ全てが日帰りである。宿泊施設があると宿泊を伴う観光客が増え、バス等の利用客もより増加するのではないか。
山口委員	旭橋から JR 福間駅に繋がる道路が非常に混雑している。右折車線を拡大すれば渋滞解消につながるのではないか。
事務局	道路の拡大となると、膨大な費用が発生し、かつ年単位での話になる。道路交通法等、様々な絡みがあり、簡単な話ではない。
(会議終了)	

上記会議録は事務局が作成したものであるが、その内容が正確であることを証するため、ここに署名します。

令和 年 月 日

福津市地域交通体系協議会

委員 _____

福津市地域交通体系協議会

委員 _____